

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
( 公 印 省 略 )

### 病害虫発生予察技術情報について

平成 31 年度病害虫発生予察技術情報第 7 号を発表したので送付します。

## 平成 31 年度病害虫発生予察技術情報第 7 号

### カンキツにおけるかいよう病と黒点病の防除対策について

沖縄地方の向こう 3 か月の気象予報によると 3～5 月の降水量はほぼ平年並で、特に 5 月は平年と同様に曇りや雨の日が多く、平均気温は高い見込みです。また、暖候期予報により梅雨期（5 月～6 月）の降水量は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されています。このため、カンキツにおけるかいよう病と黒点病の発生が増加する恐れがあります。特に、北面で風が強く当たる園地では果実への被害が出やすいので、防除対策を徹底しましょう。

#### 1 生態

- (1) かいよう病は葉、緑枝、果実に発生する。病斑は点状から始まって 2～10 mm に拡大し、その周囲に黄色のふちどりが生じる（図 1）。伝染源は樹上の葉、枝などの病斑であり、新しい病斑ほど重要である。
- (2) かいよう病の病原菌は、気孔や傷口から感染し、風雨によって広範囲に飛散する。台風やハモグリガによる葉や枝の傷口は感染を助長する。
- (3) 黒点病は葉、緑枝、果実に 0.1～0.5 mm ほどの黒点を形成する（図 2）。病原菌は枯枝で越冬し、この枯枝が唯一の伝染源となる。枯枝直下の果実は濃厚感染し、雨滴の流れに沿った涙斑状や泥塊状の病斑を形成する。
- (4) 黒点病は水媒伝染性の病害で、被害は落花後から収穫前までの降雨に左右される。
- (5) 両種とも果実に形成された病斑は、商品価値を著しく損ねる（図 3、4）。
- (6) 3 月～4 月頃の発芽期から新梢伸長期に雨が多くて気温が低いときに出やすい。

#### 2 防除対策上注意すべき事項

- (1) かいよう病、黒点病の被害は降雨による影響が大きいことから、梅雨期前の 3 月頃（発芽期）に防除対策を重点的に行うと効果的である。
- (2) 園内の通風、採光を良くするために、間伐・剪定等の管理を徹底する。



図 1 かいよう病の葉の病徴（タンカン）

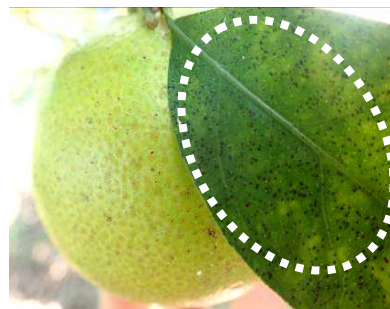


図 2 黒点病の葉の病徴（タンカン）



図3 かいよう病の果実の病徴（温州みかん）



図4 黒点病の果実の病徴（タンカン）

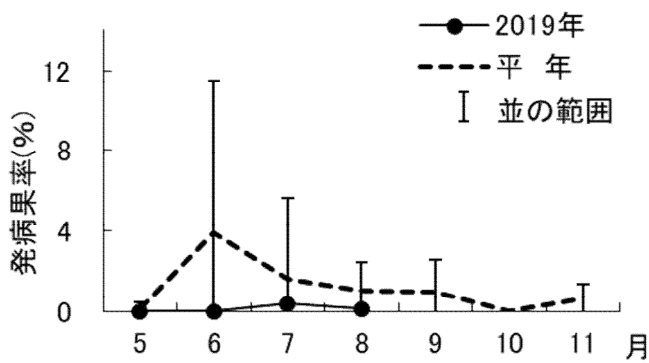


図5 かいよう病の発生推移（温州みかん）

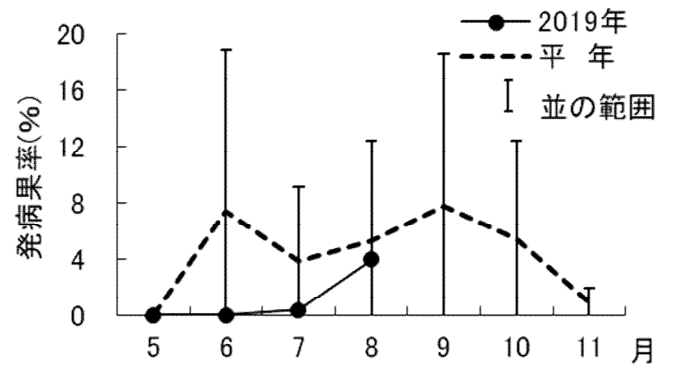


図6 黒点病の発生推移（温州みかん）

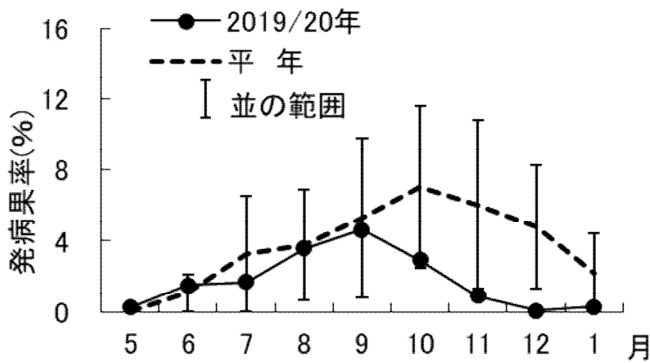


図7 かいよう病の発生推移（タンカン）

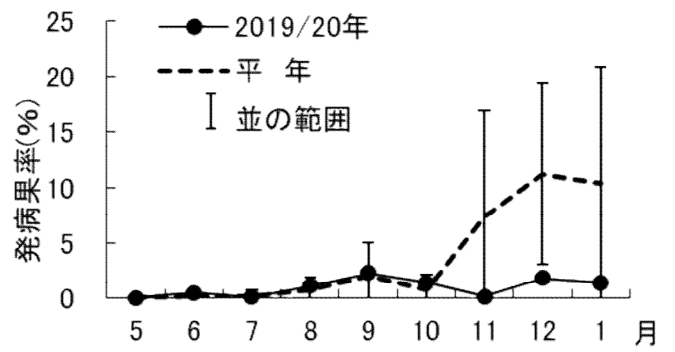


図8 黒点病の発生推移（タンカン）

図5～図8は沖縄本島での発生推移である。

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933  
 ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojjo/index.html>